

なぜコンビーフの缶だけ 不思議な形をしている？

缶詰といえば大体、円筒形と決まっているが、コンビーフの缶だけはあの独特の四角い、ピラミッドの頭を切ったような形（通称を枕缶という）をしている。

これは日本だけではなく、アメリカでも缶入りのコンビーフが初めて製造されたときから、ずっとこの形をしているそうだ。

ときは十九世紀なかばのシカゴ。

この町は大発展期を迎えていた。鉄道はシカゴを中心に中西部に広がり、広大な牧畜地帯から牛や豚が送り込まれてきた。

一八六〇年、シカゴでは年間四十万頭の家畜が処理されていたが、そのわずか二年後の一八六二年には三倍の百三十万頭が処理されるようになっていた。

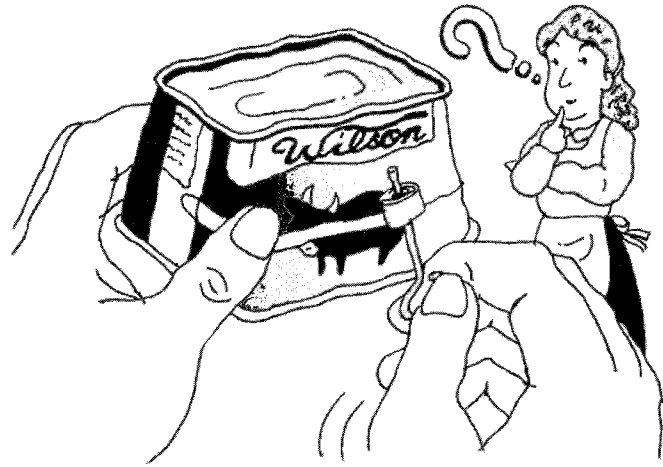
世界最大の食肉生産を誇るユニオン・ストックヤーズが設立されたのは一八六五年のことである（一九七一年に閉鎖）。

そのシカゴの食肉生産業者のひとり、J・A・ウィルソンが新しい加工食品を発明した。いわゆる缶詰のコンビーフである。

骨、軟骨を取り除き、水分を減らして圧縮してあるので、重量は従来の樽詰肉の三分の一に

減少した。

肉の繊維をほぐし味付けしてあり、そのまま食べられるので、軍用食、簡易食としてたちまち普及していった。



ウィルソンが知恵を絞ったのがあの形。台形にした理由は二つある。

まず、第一に詰めやすいこと。

缶内に空気が残ると肉が酸化して変色するが、この形だとすき間なく充填しやすい。

次に、コンビーフは携行食品なので、どこでも開けられるように鍵を使って缶の側面を巻き取るようになっていたが、そのときにこの形だと普通の円筒形の缶に比べて、中身がすっぽりと取れやすくなる。

ウィルソンはこの新型の台形の缶の特許申請したが、登録認可されたのは一八七五年のことだった。